

# 植民地統治と地方社会

——日治時期台湾史料と研究潮流の紹介\*

張 隆 志

## はじめに

日本統治時代の台湾史（1895～1945年）研究は、1980年代後期に大きな発展を遂げ、清朝台湾開発史に代わり学界の関心が最も集中する新分野になった。その主要な特徴として、以下の3点が挙げられよう<sup>1</sup>。

第一は、台湾中心史観の提唱および植民地近代性に対する反省。戒厳令解除以後、台湾近代史研究では台湾中心史観が盛り上がりを見せた。これは、台湾の土地と人民こそが台湾の歴史の主体であることを強調し、政権や統治者を中心に据えていたそれまでの史観をくつがえすものだった。また長期的かつ全般的な視点から、台湾社会の発展と変遷の過程を理解すべきだとも主張している。

第二に、新史料の発掘整理と史料学の発展、および各種公文書や民間文書のデジタルデータベース化。日治時代の台湾史研究は1990年代以降、清朝時代の台湾史と入れ替わり、勢いのある新分野となった。その要因の一つとして、『台湾総督府公文類纂』といった公文書の公開のほか、『台湾日日新報』などのデータベースが整えられ、また各種民間史料が整理されたことがある。ここでは中央研究院台湾史研究所を例に、日治時代の公文書アーカイブ・民間文書・家族史料・個人の日記・地図・写真およびデジタルデータベース化といった近年の史料整理の成果を紹介する。

第三は、問題意識と研究視座の新たな創造、および学際的新分野の登場。台湾近代史研究が発展したもう一つの原動力は、問題意識と研究視座の新たな創造にある。新世代の研究者は史料実証の基礎の上に、ポストコロニアリズム・近代性・フェミニズムおよびグローバル化、トランスナショナルといった異なる思潮を結合していき、それまでの抗日民族主義やモダニズム理論といった古いモデルから離脱しようとした。そして植民地の政治・経済・社会・文化史の研究の他に、新しい課題や見解を提示し、法律史・医学史・女性史・環境史といった学際的な新領域を開拓していった。

本稿ではまず、中央研究院台湾史研究所档案館を例にとり、日治時期台湾史料の整理概

---

\* 本稿は、2011年7月14日国際学術シンポジウム「植民地帝国日本における支配と地域社会」で発表した内容をもとに書かれたものである。松田利彦准教授に発表の機会をいただいたこと、陳延媛博士に日本語原稿作成のサポートをしていただいたこと、春山明哲教授に貴重なアドバイスをいただいたことに対し、この場を借りて感謝の念を記したい。本稿中の議論・意見は、すべて筆者の責任のもとに書かれたことも明記しておく。

1 張隆志「當代台湾史學史論綱」『台湾史研究』第16巻第4期、2009年、161～184頁。

況を紹介したい。次に、研究方法論の全体的観点から、台湾近代史の重要な趨勢について説明する。そして近年、学术界が植民地の統治管理や地方社会といった問題を重視し始めたこと、国家と社会の関係を研究することが新しい流れになってきたことも論じる。最後に、現代台湾が「東アジア」をどのように論述すべきかという問題を取り上げ、結びとしたい。

## 1 日治時期台湾史料の整理と利用——中央研究院台湾史研究所档案館を例に

日治時期の台湾史研究は1990年代から発展し、清朝時代の台湾史に代わり新たに登場した重要分野となった。その原因として、『台湾総督府文書』といった公的アーカイブの公開、『台湾日日新報』などのメディア史料の刊行、各種民間史料の発掘が挙げられるが、それらは研究者に堅実かつ豊富な基礎的史料を提供した<sup>2</sup>。

植民地台湾の資料収蔵については、戦後から国史館台湾文献館（前台湾省文献委員会）、中央図書館台湾分館（前台湾総督府図書館）、および台湾大学図書館（前台北帝国大学図書館）が三大重要機関とされている<sup>3</sup>。1980年代後半以後の台湾資料の蒐集や研究は、中央研究院台湾史研究所を例にとると以下のように説明できよう。

中央研究院台湾史研究所は1993年に設立計画段階の古文書室として開設され、各種の台湾史料の蒐集と整理を担っていた。その前身は1988年に成立した中央研究院「台湾史フィールドワーク研究室」で、民間から寄せられた貴重な史料の調査と保存が主な事業だった。2004年7月に台湾史研究所が正式に開設してからは、蒐集対象資料をさらに拡大し、各種の民間文書を購入あるいは寄付といった方法で入手し、合同収蔵やデジタル化の計画を経て、国史館台湾文献館との『台湾総督府公文類纂』デジタルデータベースの共同設置、中央図書館台湾分館との日本語旧籍の整理とデジタル化の作業を行った。これらの業績を基礎に、2009年ついに正式に档案館を開設した。

中央研究院台湾史研究所档案館における日治時期の台湾関係の資料は、アーカイブの他に地図・写真・文献など、出所・タイプともに多岐にわたる。それはおおよそ以下のように分類できる。

- 1、公文書アーカイブ：諭令、公文類纂、土地調査、署名書状といった各種形態の公文書。
- 2、民間文書：土地契約、帳簿、教会資料、履歴書、学校史料といった各種形態の民間史料。
- 3、個人・家族のアーカイブ：書信、辞令（招聘状）、卒業証書、賞状、賞品、風水単、命単、処方箋、招待状、著名人の手書き原稿、訃報、結婚式招待状といったもの。

次に、主な内容について例を挙げながら紹介してみたい。

2 王世慶『台湾史料論文集』（台北：稻郷、2004年）。

3 国立台湾大学図書館：<http://www.lib.ntu.edu.tw/CG/resources/Taiwan/taiwan1.htm>; 中央図書館台湾分館：<http://www.ntl.edu.tw/>; 国史館台湾文献館：<http://www.th.gov.tw/>